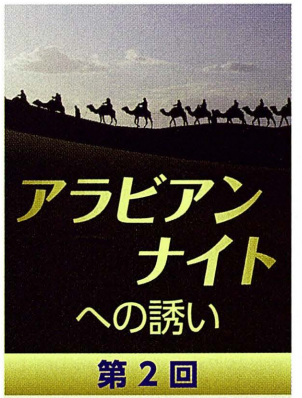


# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 美女のショッピング：迷宮都市フェズのバザール (アラビアンナイトへの誘い, 2)

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2015-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西尾, 哲夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/5570">http://hdl.handle.net/10502/5570</a>



夢と不思議が錯綜するアラビアンナイトの世界を旅してみましよう。第二回は「美女のシヨッピン」  
グ。モロッコの迷宮都市フェズでは、アラビアンナイトそのままのバザールを見ることが出来ます。

## 美女のシヨッピン — 迷宮都市フェズのバザール

文  
西尾 哲夫  
text & photo by  
Nishio Tetsuo

京都大学大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手、同助教授を経て現職。  
現在、人間文化研究機構・国立民族学博物館副館長／教授、総合研究大学院大学教授

……次に娘は果実と花をあきなう店の前で立ちどまり、何種類かのリンゴ、ア  
ンズ、桃、マルメロ、レモン、シトロン、  
オレンジ、ミルテ、バジル、ユリ、ジャ  
スミン、その他もろもろの花やよい香りの  
する草木を買いもめました……次に  
肉屋に立ち寄ると、とっておきの肉  
を二十五リール量らせて買いもとめ、  
……次に別の店に入り、ケイパー、エ  
ストラゴン、キュウリ、パスピエール、香  
草類の酢漬けを、また別の店ではピスタ  
チオ、クルミ、ハシバミ、マツの実、ア  
ーモンドなどの木の实を、さらに別の店  
ではありとあらゆるアーモンド菓子を買  
いました……それから娘は薬種店に入り、  
あらゆる種類の香水、クローブ、ナツメ  
グ、シヨウガ、大きな竜涎香の塊、イン  
ド産の香辛料をもとめたので、荷担ぎ屋  
の籠はいっぱいになりましたが、娘はま  
だついてくるよつと言いました。

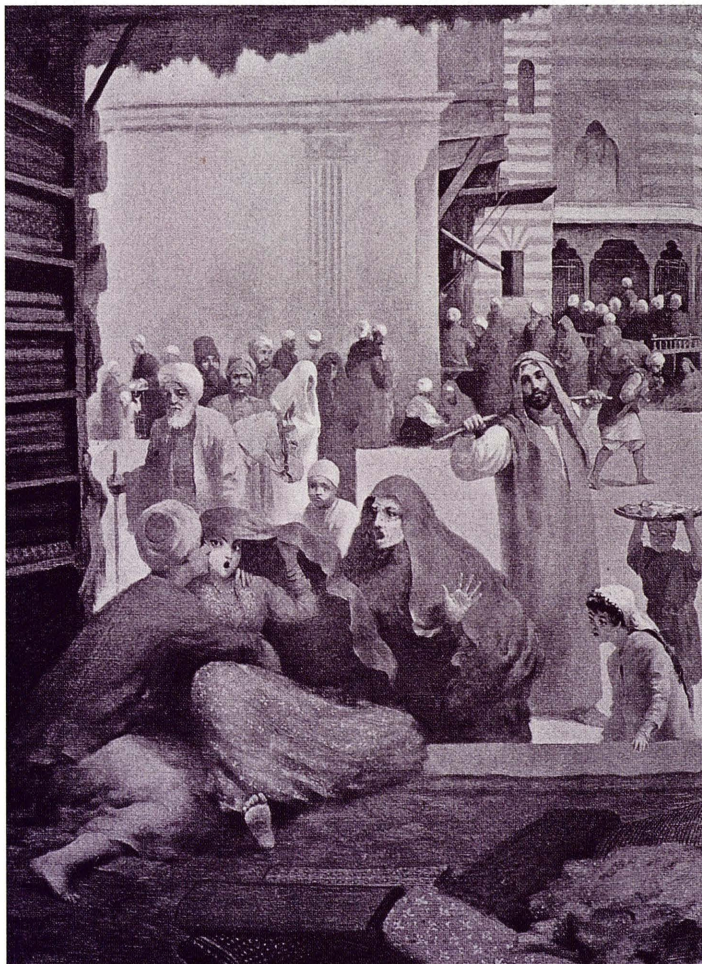
『ガラン版千一夜』より 《王子である三人の遊行僧とバグダードの五人の娘の話》  
冒頭部分

ここで紹介した《王子である三人の遊行僧とバグダードの五人の娘の話》

は、まとまった形で伝えられたアラビアンナイト写本としては、最も古いとされるガラン写本に記されています。

この写本は十五、六世紀ころに成立したと思われ、娘がシヨッピンを楽しんだバグダードの市場風景をリアルタイムで描写しているわけではありませんが、世界中の産物が集まる市場の盛況を生き生きと伝えています。

西暦七六二年にアッバース朝の第二代カリフによって建設された円形都市バグダードは、唐の長安と並ぶ大都市でした。アラビアンナイトでも活躍する第五代カリフ、ハールーン・アッラシードのころの人口は百五十万に達していたといわれています。当時のバグダードには、上述のような香油や香水、食品、スパイスの他にも、東西をつなぐ交易路を経由して中国の絹や陶磁器、インドの宝石や珍獣などが入ってきました。バグダード出身の商人シンドバッドが活躍する《シンドバッド航海記》には、セレンディブ（セイロン）の国王から託された豪華な贈りものが記されています。



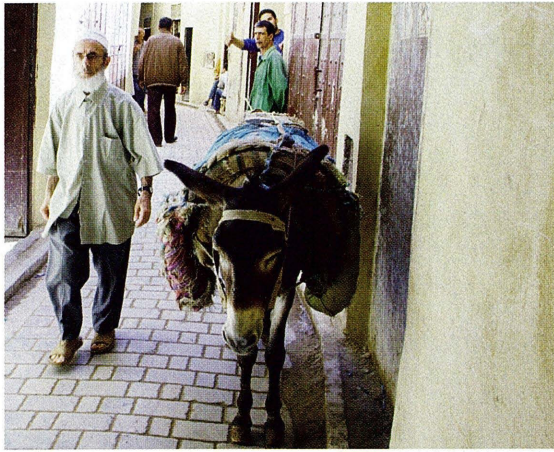
「布地を買いにバグダードの市場に行った美人妻、キスをさせてくれたら高価な反物をただにすると言われて頬をさしたのだが……」（《アミーナの話》より）アルバート・レッツフォード画（1897年）

……王よりの贈り物は次のとおりでした。最初の品は、ただひとつの紅玉で作られた杯。高さは半ピエ、厚みは一ドゥウ、中には大粒の丸真珠ばかり、重さはすべて半ドラクマ。次に金貨ほどの大きさのある鱗を持つ大蛇の皮。この上で寝れば百病を避けることができます。三番目に

最高級の沈香五万ドラクマ。ピスタチオ

の実ほどもある樟脳三十粒。そして宝石で飾られた衣装をまとった輝くばかりに美しい女奴隷一人……

アラビアンナイトに描かれたような黄金期以後、バグダードはしだいに衰退し、十一世紀になるとイスラーム世界の文化的な中心地はカイロを中心とする北ア



ロバは運搬役として大活躍／フェズ

フリカへと移っていきます。二二五八年、モンゴル軍の来襲によってアッバース朝は滅び、平安の都と称されたバグダードは壊滅的な被害を受けました。

モロッコの内陸部にあるフェズ（アラビア語ではファース）が築かれたのは、バグダードの建設よりも少しあとの八〇六年のことです。この町は、コルドバ（スペイン）やチュニジアでの反政府蜂起に失敗して亡命してきたアラブ人、スペインからのユダヤ人コミュニティなどを受け入れながら発展し、十三世紀には黄金期を迎えました。九世紀に基礎が築かれたカラウイーンモスクには世界最古の大学もあり、北アフリカやイベリア半島から名高い学者が集まってきました。歴史哲学の祖とされる大学者イブン・ハルドゥーンもここで学んでいます。

現在のフェズは当時の面影をよくと



革の加工工場タンネリー／フェズ

どめており、旧市街（アラビア語でメディナ）はユネスコの世界遺産にも登録されています。蟻の巣のように複雑に入り組んだ街路は狭く、十万人を超える住民に加えて世界各地から観光客がやって来るため、人がすれ違うのがやっとです。ロバやウマは通行できませんが、車は一台も走っていません。世界最大規模の歩行者天国といったところでしょうか。モスクの近くなどには、荷物を積んだロバが通れないように、ロバよけの横棒が渡してある場所もあります。

メディナには多くの職人が暮らしており、さまざまな手工芸品の店が軒をつらねています。木工品、金銀細工、タイル、革製品、織物といった商品の種類ごとに店が集まり、店先や奥まった工房では職人たちがアラビアンナイトの時代から伝承されてきたわざをふ

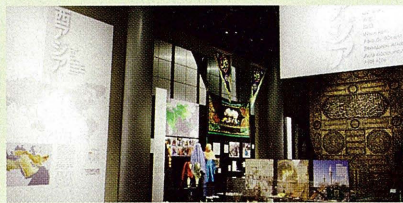


色とりどりの甘い菓子が売られている／フェズ

るっています。かつての隊商宿（フンドウク）が工房として使われており、分業制になっている製品などでは、フンドウク全体が一つの工場のようにもなっていることでもあります。日本でもよく見かけるようになったパブーシュ（かかとを踏むタイプの内履き）も、このような工房で造られています。また、メディナの中心を流れるフェズ川の近くには革の加工工場があり、染料が入ったカメが絵具のパレットのようにずらりと並んでいます。

野菜や果実や肉だけではなく、魚を売る店もありました。気になって訊ねたところ、地中海の魚だそうです。どう見ても干物ではなさそうですが冷蔵庫に入っていないだったので、塩漬けで運ばれてくるのかもしれない。アラビアンナイトの《せむし男の話》は、大

西尾氏が副館長を務める  
**国立民族学博物館（みんぱく）**  
 「地の先へ。知の奥へ。」をモットーに、展示や情報発信を通じて、人間文化を探求への旅へご案内します。  
 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
 TEL：06-6876-2151



リニューアルした国立民族学博物館の西アジア展示

P28~33

中近東・北アフリカへのご旅行はP 28~33をご覧ください。

きな魚のフライを丸のみにして死にかけた男をめぐるドタバタ劇です。当時の庶民はフライなどの簡単な調理法で魚を食べていたようです。

中東に旅行した人ならだれもが口にするナツメヤシ（デート）だけであつかう店もあれば、ハチミツや砂糖をたっぷり使った伝統的な甘菓子を売る店もあります。日本で食べると甘すぎてもたれるのですが、暑い場所で食べると逆にすっきりするのは不思議です。最初期のミステリー作品として知られる《三つの林檎》の支話には、スルタンの勘気をこうむった宰相の息子がダマスカス一の菓子職人となる人情話が入っています。宰相の息子は、菓子の秘伝を母親から教わったのでした。アラビアンナイトのころから甘い菓子は生活の必需品だったのでしょう。